

# TBL (Team-Based Learning) の実践

- 自らの考えを語り、他者の考えを聴く、  
そして自らの考えを内省できる学生の育成をめざして —

---

筑紫女学園大学短期大学部

大橋 健治

天野 緑郎

## ■ ことの発端

---

2008年10月1日、筑紫女学園大学短期大学部に着任。

- 進路支援委員に就任した大橋のもとへ、多くの短大生（あるいは学部生）が相談に訪れる。
- コンピテンシー面接や、短大、大学、大学院を区別しないグループ討議面接など、新卒採用に変化の兆しが・・・。
- 一方、本学の授業は教員が一方向的に話す講義が大半で、就職部は、笑顔の作り方、お辞儀の仕方、声の出し方など、マナー中心の面接指導にとどまっていた。
- 問題の本質は、社会が新卒者に求めていることの変化に、本学の教育があり方ミスマッチを起こしているのではないかと・・・。

# ■ どのような力を育成しなければならないか

---

## 新卒採用に関するアンケート調査（経団連）

- コミュニケーション能力が9年連続で第1位（80%超）※。

※コミュニケーション能力の内実については、

油谷純子らの「きく・話す能力の教育方法—社会人基礎力を中心として—」（2012）に詳しい。

## 私見ですが、コミュニケーション能力とは・・・、

- 自分の考えを持つ力
- 自分の考えを伝える力
- 相手の考えをきく力
- 双方の考えを共有する力
- 自分の考えを振り返る力、のセットではないか・・・。

## TBL (Team-Based Learning) との出遭い

---

### 経験と勘と度胸で“TBLもどき”の授業を実施

- グループで話し合いをさせるのは妥当解を考えるときのみ。

### TBL との出遭い

- 溝上慎一(2007)※との出遭い — 医療分野の進取性を指摘
- 尾原喜美子(2009)※との出遭い — 看護学分野のモデルを提示
- ラリー・K. マイケルセン他(2009)※との出遭い
- さらに...、TEAM-BASED LEARNING COLLABORATIVE ※との出遭い

### 試行錯誤の末、現行の授業モデルに帰着

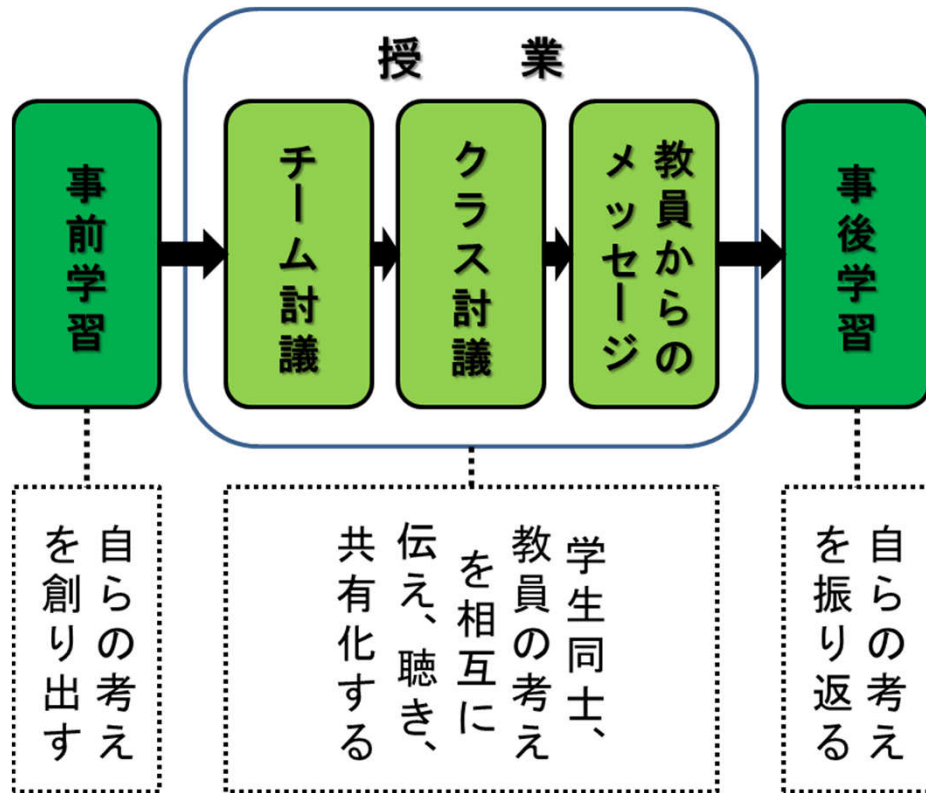
※「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」(2007)名古屋高等教育研究第7号

※「チーム基盤学習法 (team-based learning TBL) の紹介」高知大学看護学会誌3巻1号

※『TBL 医療人を育てるチーム基盤型学習』(ラリー・K. マイケルセン他、バイオメディクスインターナショナル、2009)

※<http://www.teambasedlearning.org/>

# ■ 現行の授業モデル



- 事前学習 & 事後学習が必須  
(専用の受講ノートを用意)
- 授業(90分)は、「チーム討議」→「クラス討議」→「教員からのメッセージ」にほぼ3分割
- 教科書は、学生の理解度に合わせて極力平易で本質的なものを選択
- そうは言っても、学生はTBLに慣れておらず、半期15回の授業で徐々に慣れさせていく必要がある注。

注: 1回目から4回目までは手本見せとチームづくり。5回目から7回目が練習。本格稼働は8回目から、が目安。詳細はシラバスを参照ください。

## TBLの運営で心掛けるべきこと

---

教員は「事前学習」のゲートキーパー(門番)たれ

- 事前学習の質がTBLの生命線である。

教員は「進行状況」のアドミニストレイター(管理者)たれ

- 各チームの状態(チーム討議時)、クラスの状態(クラス討議時)を把握することに細心の注意を払うこと。

教員は「質問」のインデューサー(誘発者)たれ

- 多くを語りすぎてはいけない。質問を受けて語ることが肝要。

教員が学生の「主体性」を引き出す役割に徹することが、TBLのCSF(重要成功要因)である

# 学生による授業評価

## 2013年度授業「社会で働く」の自由記述より抜粋(原文のまま)

- このような形式の講義は珍しかったので、とても新鮮でした。あまり人前で発表するのが得意ではありませんが、自分なりに頑張れたと思います。最初はどのようにいいのかわからずかなり戸惑いましたが、後半になるにつれて慣れていって、チーム内でも積極的に話し合うことができました。半年間ありがとうございました。
- この授業を受講して学んだことは、自分だけで考えるよりも、チームで考える方が、新たな視野が広がるということでした。チームのみんなの意見を聞くことで、自分だけでは気づけなかったことを気づけるようになりました。
- こんなに学生主体の講義は初めてで、最初は戸惑いましたが、受けていくうちに、確かに学んでいるという感じがすごく感じられる講義だったと思います。
- チーム討議の授業は嫌だと決めつけて、受講するのをやめてしまった友達がいるのもったいないなと思いました。すごく勉強になりました！
- 自分たちの力で作り上げる授業はほんとに素晴らしいものであったとおもいます。いい体験ができました。しかし、もっと先生から学ぶこともあっていいのではないのかな？と思います。
- 大勢の学生の前で先生と対談をする機会なんて、そんなにあることじゃないと思います。なので、貴重な体験をさせてもらえました。私は、チーム討議のときも対談のときも、緊張しまくりで何を言ってるのか分からない状態になってしまいました。でも、学生の人たち、先生が、良かったところ、悪かったところを教えてくださいましたので、それに気を付けながら、今後この講義で学んだことをいかしていきたいと思います。
- この授業を通して、人の話を聞くこと、人と情報を共有することの大切さを学ぶことができました。社会に出てからのことを考えて、この授業で学んだことを活かし自分を見直そうと思います。

## ■ まとめ

---

- TBLは、旧来の講義法の授業をアクティブ・ラーニング化する方法のひとつである。
- TBLのCSFは、教員の役割が大きく変わることを、教員自身が良く自覚し、立ち位置を変える努力をすることである。
- (おまけに)いわゆるCAP制度の根拠となる予習や復習の実施を担保する施策としても有効である。